

# 幼児が進んで絵本に親しむための援助の工夫

## — 4歳児における読み聞かせの実践を通して —

浦添市立神森幼稚園 平田 輝代美

### 【要約】

本研究は、幼児期の心を育む上で絵本の読み聞かせが大切であるという前提の基、子どもたちが、より楽しく絵本に親しむことができるよう、読み聞かせの理論研究を行い指導計画の作成及び教材・教具の工夫に取り組んだ。それらのことを踏まえ、実践を行った。読み聞かせの実践を重ねる中で、子どもたちが絵本に親みイメージを豊かに膨らませ、生き生きと活動する姿が見られた。

### キーワード

□ 絵本の読み聞かせ □ 年間指導計画 □ 教材・教具の工夫

### I テーマ設定理由

情報化社会といわれる今日、絵本、児童図書、漫画、テレビ番組、映画など子ども向けの文化は多様に広がり、氾濫している状態である。

映像メディアは音と映像の両方でありかなり強い刺激を子どもに与える。また一方的に流れ、足早に通り過ぎるため、子どもたちが言葉によって深く考えイメージを膨らませるといった点では弱い面があるように思う。「心を育む時期」といわれる幼児期に、一方的に流れていく映像メディアだけでなく、人との関わりの中で出会っていく絵本や物語の世界が「心を育む」上では大切であると考えられる。

幼稚園教育要領、領域「言語」の内容に「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。」と明示されている。幼稚園において、絵本や物語を読み聞かせることは、自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみと出会うことになる。その中で、「なぜ」「どうして」という不思議さを感じたり、「わくわく」「ドキドキ」して驚いたり、感動したりする。また、悲しみや悔しさなど様々な気持ちに触れ人の痛みを知る機会ともなる。このように幼児期においては、絵本や物語の世界に浸る経験が大切であるといわれている。

日々の保育の中で、子ども達は絵本や物語を読んでもらうことが好きである。どんなに騒がしくても絵本のページを開いた瞬間、静かになり絵本の世界

に引き込まれていく。特に4月より初めて担当した4歳児はアニミズムの世界が大きく、感じたことを素直に体ごと表現し、物語の世界を楽しんでいる。

しかし、絵本を与える側の教師の援助を振り返ると、「子どもたちが絵本により親しむことができるよう発達に応じた絵本を精選して与えていただろうか。」「絵本の世界で夢をふくらませて楽しむことができるような教材の開発や、絵本を遊びの中に取り入れていく工夫をしていたのだろうか。」さらに始まったばかりの4歳児保育において指導計画の充実が大きな課題である。これらの課題を踏まえ、4歳児の絵本に対する興味関心を高め5歳児へとつなげていくことの大切さを感じる。

子どもの発達に応じた絵本を精選し、指導計画を作成する中で、絵本の与え方や教材の工夫をすることにより、絵本や物語の世界が子どもにとってより楽しいものになるであろう。

子どもが絵本や物語の世界で、心を動かし、楽しいと感じる経験を積み重ねることが、幼児期の豊かな心を育んでいくのではないかと考え、本テーマを設定した。

### II 目指す子ども像

進んで絵本に親しみ、想像する楽しさを味わう子

### III 研究の目標

幼児が進んで絵本に親しむため、発達段階を踏まえた年間指導計画の作成と、絵本の読み聞かせがよ

り楽しいものとなるよう、教材や教具の工夫を行う。

- (1) 子どもの興味関心に応じた絵本を精選し読み聞かせることによって、言葉に対する感覚も育まれ、イメージが深まるであろう。
- (2) 生活や遊びに取り入れていく教材や教具の工夫を行うことで、より絵本に親しみ、絵本の楽しさを味わうであろう。

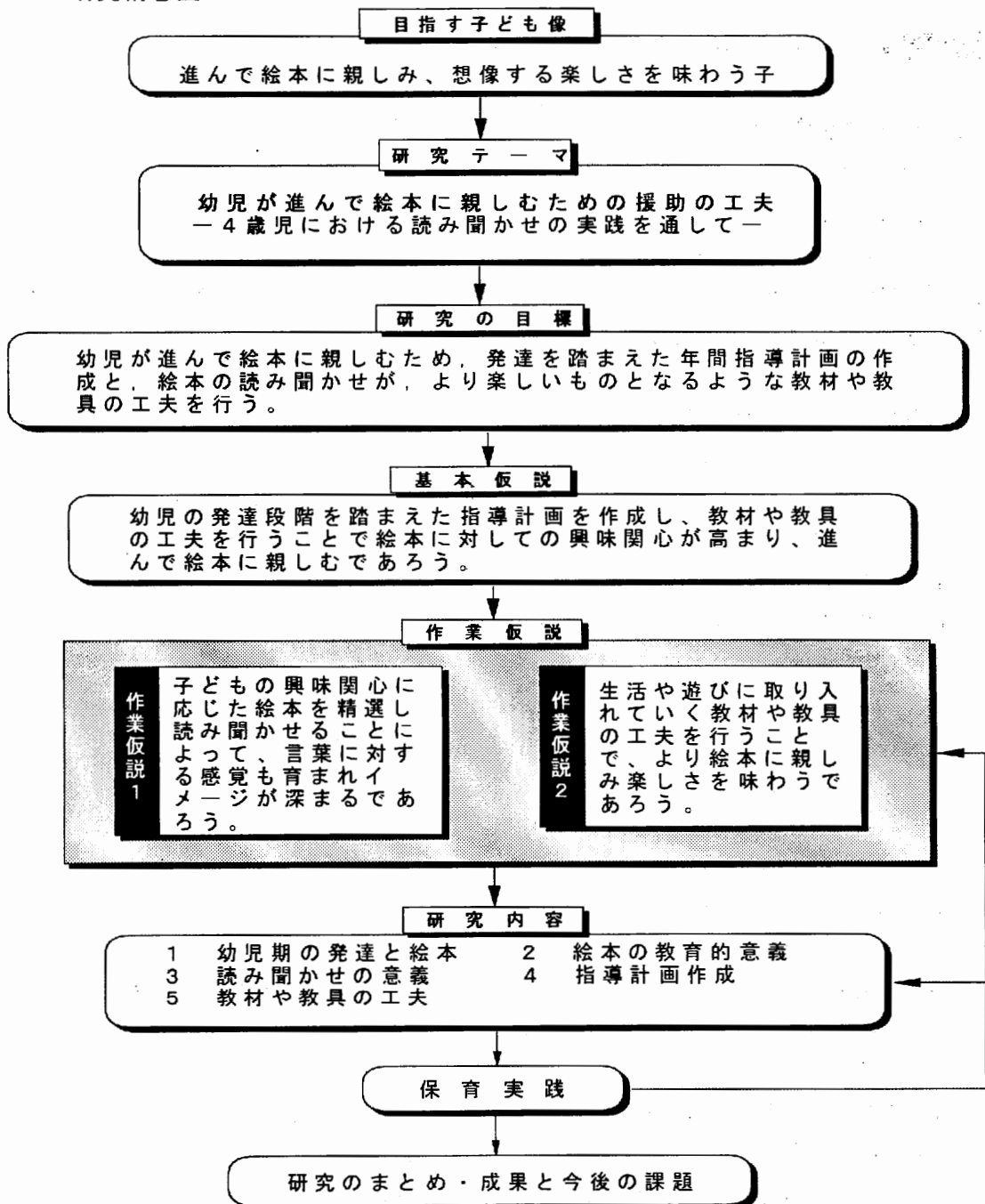
#### IV 研究仮説

##### 1 基本仮説

幼児の発達段階を踏まえた指導計画を作成し、教材や教具の工夫を行うことで、絵本に対しての興味関心が高まり、進んで絵本に親しむであろう。

##### 2 作業仮説

#### IV 研究構想図



## V 研究の内容

### 1 幼児期の発達と絵本

子どもの人格の構造と発達を図1のように捉えた。子どもの発達にとって一番大切な事は情緒の安定であり、情緒の安定が順調に育つと「思いやり」の心が育つ。情緒が安定することにより自発性が芽生え、まわりの環境に積極的に関わっていかうとする「意欲」が出てくる。それを土台にし、社会性（友達作りの能力）が育ち、知的能力も育まれる。（平井 1998）人格形成の基盤となる「情緒の安定」において、幼児期の絵本の読み聞かせは大きな影響を与えると考える。

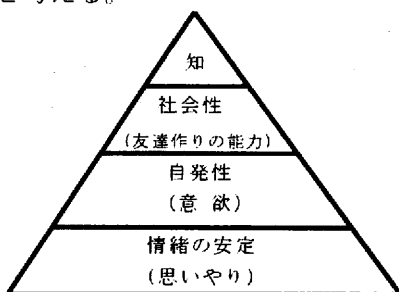


図1 子どもの人格の構造と発達

幼児は、絵本を読んでもらうことが好きである。それは第一に、絵という目の見えるものと言葉という耳に聞こえるものとの重なって具体的なイメージが生まれ、それがストーリー性をもって展開することから想像力が刺激され、共感、期待、不安、安心などの感動を深く味わうことができるからである。それは、子ども自身の生活の確認であるとともに、未知の世界への冒険旅行であり、いろいろな新しい知識に触れて自分が豊になっていくことでもある。

また、何よりも絵本を読んでもらう人との交流が、子どもの情緒の安定や豊かな心を育てていく上では大切であると考え。本研究では上記のような考えを踏まえ実践に取り組んだ。

### 2 絵本の教育的意義

絵本とは、文と（詩、物語）と絵が一体となっている本である。そして、子どもが最初に出会う本であり、将来の読書生活の礎となる大切な本である。

文字のみによる本とは違い、耳から入ってくる言葉の響きと、目に訴える美しい絵とが一体となった芸術作品だといわれている。

絵本の教育的意義を、次のようにまとめる。

- (1) 楽しみや喜び悲しみなどの、感動体験を味わう。
- (2) 情緒の発達を促し、豊かな心情を培う。
- (3) 美的なセンスと感性、感受性を育む。
- (4) 集中力や話を聞こうとする態度を育む。
- (5) 語彙が増え、話す力や言葉の表現力を育む。
- (6) 知的な好奇心や科学的な芽生えを育む。
- (7) 絵本の世界の中で、主人公と一体化する事により、直接的な体験をする。
- (8) 思考力（理解力・洞察力・判断力・分析力など）を培い、イメージを育む。
- (9) 読書生活の基礎を養うと共に、本の扱い方を通して物を大切にする意識や態度が育つ。

### 3 読み聞かせの意義

絵本の特性を生かすには、読み聞かせによる実践が必要である。児童文学者である松居直（1989）は、「絵本は子どもに読ませる本ではなく、おとなが子どもに読んであげる本です」「絵本はまず字を読む本ではなく、絵を読む本です」「子どもは絵を読み、大人が文を読んであげるとき、絵本はその全体の姿を子どもの頭の中にはっきりと描き出します。これが最高の絵本の与え方、生かし方です」と述べている。そして、読み聞かせとは読み手が言葉に込めた愛情を、子どもが受け取る「愛の体験」であると述べている。大人が絵本を読んであげることは、子どもの精神的、知的成長にとってもとても大切なことである。読み手の絵本に対する理解や、共感が深ければ深いほど、聞き手（子ども）は絵本の中へ深く入り込めるし、その体験は豊かな物になる。特に集団において読み聞かせる際、次の様な点に配慮する。

#### (1) 集団へ読み聞かせるときの配慮

絵本は1対1、もしくは少人数の子で絵をじっくり見せながら楽しみたいが、幼稚園においては集団への読み聞かせが多くなる。その際、次の様な点を考慮する。

- ① 1対1の時より少しやさしい本を選ぶ。
- ② うしろのふまで見える大きさの絵の本を選ぶ。
- ③ 季節や行事にあった本を選ぶ。
- ④ 絵と文のバランスを考えて選ぶ。

## (2) 絵本を選ぶめやす

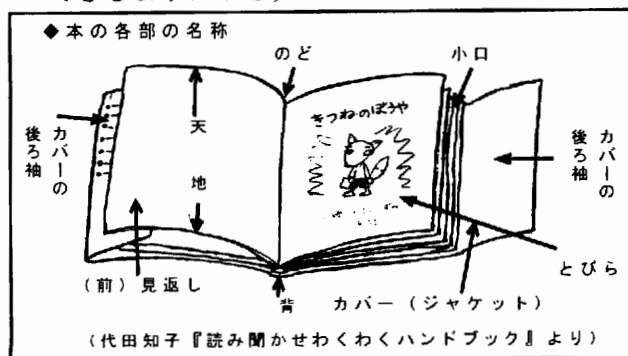
絵本を選ぶめやすは、絵本に描かれた世界に自然に入り込むことができ、存分に楽しめる絵本、読み終えた後に深い感動を残し、子どもの心を豊かに育んでくれる絵本。そのような絵本と多く出会える為にも、絵本選びは重要である。絵本を選ぶ際のポイントとして次のような事が考えられる。

- ① ストーリーやテーマがわかりやすいか？
- ② ストーリーが機知に富み、おもしろいか？
- ③ リズムがある美しい日本語か？
- ④ 繰り返しがうまくいかされているか？
- ⑤ 生き生きとした魅力ある絵か？
- ⑥ 絵を追うだけでストーリーがわかるか？
- ⑦ ストーリーと絵が調和しているか？
- ⑧ 子どもに理解でき、共感を呼ぶようにかかれているか？
- ⑨ 本作りの細部まで丁寧か？

## (3) 読み聞かせまでの準備

### ① 本の見せ方を大切に

表紙や見返しの絵や色づかいも、様々な工夫と作者の意図が込められている。作者の意図を受け止め表紙や裏表紙まで丁寧に伝えることができるようにする。



### ② かならず下読みをする

本番前にならず声に出して読んでおく。本番の時と同じように、聞き手に見せるように本を持って、ページをめくりながら読む練習をする。

### ③ 開きぐせをつけておく

開きぐせがついていない新しい本は、読み聞かせをするために開いて持ったとき、のどの部分が膨らんでしまい、子どもたちに絵がよく見えなくなったり、読み手にも持ちにくい為、あらかじめ開き癖をつけておく。

#### ◆本をいためずに、開きぐせをつける方法

- 
1. 片方の表紙を机の上に開き、閉じの部分を人差し指と中指ではしからはしまでしっかり押していく
  2. 反対側の表紙も同じようにする。
  3. ページの部分をはしから交互に数ページずつとって、とじを押さえることを繰り返す。
  4. 本が中央で2つに開かれたら、手のひらで上からしっかり押さえる。

(松岡享子著『えほんのせかいこどものせかい』より)

## (4) 読み聞かせの留意点

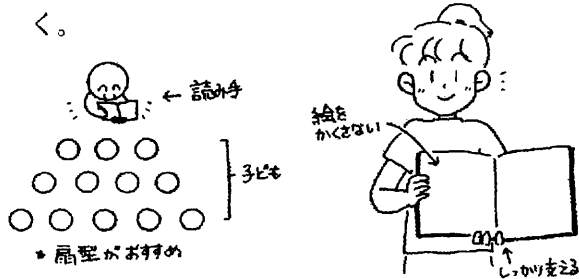
### 【絵本の持ち方】

- ① 絵本は、しっかり (180度) 開く。
- ② 左手または右手で絵本の下部の中心を持つ。
- ③ 絵本を持つ手は、ひじをまげて、脇腹につけると、安定してささえやすい。
- ④ 絵本は、読み手のからだより少し前に出し、心持ち前に倒す。出し過ぎ、倒しすぎは、読みにくくなるので注意する。
- ⑤ 絵本を持つ位置は、子どもの目の高さより、少し上を目安とする。



## 【絵本のめくりかた】

- ①絵本をもっている手の人差し指でページを浮かせ、めくりやすくする。
- ②あいている手で、絵本の下部をめくる。
- ③手が画面にかからないようにする。
- ④めくるタイミングが大切。あせって早くなったり、遅れてもたもたしないように練習しておく。



## 【絵本の読み方】

### ①よくとおる声で心をこめて

読み手の声小さかったり、聞き取りにくい読み方だと、とたんに子どもの集中力はなくなる。一番遠くの聞き手にも聞こえるように、しっかりと通る声で、心を込めて読む。

### ②絵をじっくり見せ子ども自身に発見させよう

絵本の絵は、言葉と同じくらい多くを語っている。絵をよく見ながら心ゆくまで楽しむようにする。聞き手は絵を見てお話の展開を予想し、自分で発見することで読み聞かせを積極的に楽しめる。「間」を大切にする。

### ③本に書かれた言葉を大切に

読み聞かせは耳からの読書である。読み手が勝手に本の中のことばを変えたりよけいなことばを加えることは望ましくない。本の中のことばを大切にする。

### ④作者・画家名もきちんと伝える

読み聞かせをする時に、作者や画家の名前を紹介する習慣をつけていると、回を重ねるうちに、作者や画家に関心を持ち始める。

### ⑤子どもの反応をキャッチしながら読む

読み手が読むだけの一方通行ではなく、聞き手の表情やつぶやき捉え、タイミングよく「間」を取りながら読み進める。

### ⑥余韻を大切に

最後のページを読み終えたあとも、余韻を大

切にしながらゆっくりと、見返し、裏表紙を閉じて読み聞かせを終わる。終わった後には、感想を聞いたり教訓めいたことは言わない方が望ましい。

## 5 発達に応じた指導計画作成

幼稚園教育要領では、幼児が自ら周囲の環境とかわり、活動を展開する充実感を十分に味わい、発達に必要な体験を重ねていくようにすることが大切であると述べられている。幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な援助が行われるよう指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならない。

幼児の発達に即した適切な絵本や物語に出会わせていく上で指導計画は大切である。今回は特に、4歳児から5歳児へとつなげて行くことを考慮に入れ、季節や行事に応じた絵本の指導計画と、一人一人の発達や興味関心に応じた絵本を手渡していくことができるような、絵本リストの作成に取り組んだ。

## 4 絵本の教材化・教具の工夫

これまで、日々の保育の中に絵本の読み聞かせを取り入れてきたが、より積極的に生活や遊びの中に取り入れることにより、絵本への親しみが増すのではないかと考える。

物語から受けた感動を、自分なりの方法で表現する、例えば「ごっこ遊び」「絵を描く」「制作」「歌う」「踊る」「走る」など、少し視点を変えてみると絵本からいろんな世界が広がっていくように思う。そうすることにより絵本の楽しさはもっと広がるのではないだろうか。またそれは、一緒に遊びを楽しむ仲間がいるという集団ならではの絵本の楽しみ方でもあり、集団で読み聞かせを行う大きな意義でもある。

今回は指導計画を踏まえ

- (1) 絵本から折り紙遊び紙芝居作りへ
- (2) 絵本で得た間接体験を直接体験

2つの実践で教材や教具の工夫を試みた。

絵本の年間指導計画案 2年保育 4歳児

期	I期(4月~5月中旬)	II期(5月中旬~7月)		III期(9月~10月)		
発達過程	○新しい環境に慣れ、教師に対して安心感を 持つ	○身近な環境や友達に興味関心を持って、遊ぶようになる		○いろいろな経験を通して、クラスの友達とのつながりを感じ取るようになる。		
ねらい	・園での生活の仕方に慣れ、安心して過ごす。 ・自分の好きな遊びを楽しむ。 ・園や先生に親しむを持つ。	・自分の好きな遊びのじつくり取り組む。 ・気の合う友達と好きな遊びを楽しむ。 ・読み聞かせを楽しみにし、友達と一緒に絵本を見る楽しさを味わう。		・先生や友達と一緒に遊んだり、クラスみんなで活動に取り組む楽しさを味わう。 ・思いやりに感じて、言葉や動作で相手に伝える。 ・絵や簡単なストーリーを通して想像する楽しさを味わう。		
ねらい	・読んでもらうことを喜び絵本に親しむ					
月	4月	5月	6月	7月	9月	
絵本名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンタンごのあきつね</li> <li>・たごみくんのちようちき</li> <li>・おねたしとあそんで</li> <li>・わきたしとあそんで</li> <li>・できたりするよ</li> <li>・はげたすけのうた</li> <li>・どうしやのうた</li> <li>・ちびやん</li> <li>・いびりやん</li> <li>・おおきなかぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくにげちやうよ</li> <li>・ちいさなこあら</li> <li>・ぐりやん</li> <li>・つのはな</li> <li>・とんとん</li> <li>・かば</li> <li>・おおかみ</li> <li>・おおかみ(集団遊び)</li> <li>・そらまめくん</li> <li>・そらまめくん</li> <li>・そらまめくん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どろどろ</li> <li>・おぼ</li> <li>・バーバ</li> <li>・三びき</li> <li>・おじ</li> <li>・あか</li> <li>・この</li> <li>・おし</li> <li>・おほ</li> <li>・おん</li> <li>・がん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐり</li> <li>・スイ</li> <li>・せん</li> <li>・11</li> <li>・11</li> <li>・すい</li> <li>・うみ</li> <li>・おぼ</li> <li>・ちい</li> <li>・おぼ</li> <li>・たい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おつ</li> <li>・だん</li> <li>・おつ</li> <li>・ま</li> <li>・た</li> <li>・イ</li> <li>・わ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ま</li> <li>・う</li> <li>・え</li> <li>・ど</li> <li>・タ</li> <li>・タ</li> <li>・ク</li> <li>・の</li> <li>・え</li> <li>・カ</li> <li>・や</li> </ul>
月	11月	12月	1月	2月	3月	
発達過程	○友達の中で素直に自分を表現し、一緒に遊ぶようになる。	○互いのイメージを伝え合いながら、遊びや友達関係を深めていく。		○友達と関わりを深めながら自己の力を十分に発揮して、意欲的に生活していく。		
ねらい	・みんなと一緒に遊ぶ中で、のびのびと自己を表現していく。 ・自分なりの考えやイメージをもって遊びに取り組む。	・クラスの間でいろいろな遊びを楽しむつなみながりを深める。 ・クラスの仲間といるいろいろな遊びを楽しむつなみながりを深める。 ・クラスの間でいろいろな遊びを楽しむつなみながりを深める。		・進級への期待を持ちながら、遊びや生活を意欲的に進めて行うこととする。		
ねらい	・絵本の経験を通して遊びを取り入れながら、よりイメージを膨らませる。					
月	11月	12月	1月	2月	3月	
絵本名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめてのおつかい</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> <li>・おろちん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐり</li> <li>・ぐり</li> <li>・や</li> <li>・ぞ</li> <li>・から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・て</li> <li>・ハ</li> <li>・し</li> <li>・も</li> <li>・ゆ</li> <li>・あ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ず</li> <li>・お</li> <li>・お</li> <li>・9</li> <li>・シ</li> <li>・ち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・た</li> <li>・も</li> <li>・は</li> <li>・ぐ</li> <li>・こ</li> <li>・あ</li> </ul>	

絵本の年間指導計画案 2年保育 5歳児

期	I期 (4月～5月中旬)	II期 (5月中旬～7月)	III期 (9月～10月)
発達過程	○新しい環境に慣れ友達関係を広げて、自分から遊ぶようになる。	○いろいろな遊びを経験しながら友達との関わりを広げていく。	○友達と関わりながら、自分の考えを伝えあって共に生活する楽しさを知るようになる。
ねらい	・年齢組になっただけで友達を味わないが、園生活を楽しくしむ。 ・気の合う友達と関わり、遊びを楽しむ。 ・年中で読んでもらったことのある絵本や知っている絵本を讀んでもらうことと内容を再確認し、より絵本へ親しむ。	・友達と互いにイメージを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わい友達とのつながりが深まる。 ・自分なりの目的を持って、試したり工夫したりする楽しさを味わう。 ・絵や簡単なストーリー・言葉を楽しむ。	・自分の考えやイメージを相手に伝えようと共に、相手の考えも聞かせる遊びを進める。 ・絵本を通して経験を広げたり再確認しながら遊びを広げていく
月	4月	5月	6月
絵本名	ぐりとぐら はらぺこあおむし ねずみくんのよちん ぐわんぐわん わきまのなつこ ちいさなねね タンタン タンタンのハズボ おおいちのたね	おかしなまじゅう おひげのきんぎょ きんぎょのまぼろし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし	かいたちのいき おふろのきんぎょ せんじゅうのたね すいじゅうのたね ゆいじゅうのたね おぼいせき だんごのたね あおむし
月	7月	9月	10月
絵本名	おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし	おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし	おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし

期	IV期 (11月～12月)	V期 (1月～2月中旬)	VI期 (2月中旬～3月)
発達過程	○自分の力を発揮しながら、友達と力を合わせていろいろな活動に取り組む。	○自分たちの目的をもち、その実現に向けて意欲的に遊びを進めていくようになる。	○入学への喜びや期待をもち自分から進んで何でもしようとする。
ねらい	・友達と共通の目的に向かって、自分の力を十分に発揮しながら意欲的に取り組む。 ・ストーリー性のある絵本で、不思議さやドキドキするような冒険を味わい、友達と共通の世界を楽しむ。	・グループの友達と共通の目的をもち、じっくり取り組んで、より進んだ満足感を味わう。 ・自分の力を発揮しながら、見通しをもって、意欲的に取り組む。	・自分の力を発揮しながら、見通しをもって、意欲的に取り組む。 ・長編の絵本にも興味をもちじっくりと聞く楽しさを楽しむ。
月	11月	12月	1月
絵本名	すきな5人組 シナコ はなまる はなまる はなまる はなまる はなまる はなまる はなまる	ぐりとぐら はらぺこあおむし ねずみくんのよちん ぐわんぐわん わきまのなつこ ちいさなねね タンタン タンタンのハズボ おおいちのたね	かいたちのいき おふろのきんぎょ せんじゅうのたね すいじゅうのたね ゆいじゅうのたね おぼいせき だんごのたね あおむし
月	2月	3月	3月
絵本名	おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし	おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし	おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし おまじゅうのぼうし

♥ ♥ 発達や興味関心に応じた絵本リスト ♥ ♥

絵本名		著者	絵本名		著者
兄弟・親子・家族	・あやちゃんのうまれたひ ・あえとちいさいいもうと ・ティッチ ・14ひきのあさごはん ・からすのぼんやさん ・いもうとのにゅういん ・きょうはなんのひ ・うさこちゃんのたんじょうび ・こくまのくまくん ・ちびごりらのちびちび ・おかあさんとあかちゃん ・いつまでもすきていてくれる ・どうぶつのおかあさん ・ひみつのかくればしよ ・あなたがうまれたひ	浜田恵子 林朋子 ハッチンス/石井桃子 いわむらかずお かこさとし 筒井頼子/林朋子 林朋子 ブルーナ/石井桃子 E・Hミナリック/モーリスセンダック ポーンスタイン/いわたみみ 中谷千代子 ブリッジズ・マーガレット・P 小森厚/篠内正幸 R・ベネット フレンジャー	楽しくて元気になる	・おおきなおおきなおいも ・王様と9人のきょうだい ・おしやべりなたまごやき ・いたずらきかんしやちゅうちゅう ・ひとまねこざる ・まあちゃんのながいかみ ・りんごがドスーン ・のろまなローラー ・おだんごぼん ・せんたくかあちゃん ・だつてだつてのおばあさん ・どろんこおおそうじ ・ぞうのエルマー ・げんきなマドレーヌ ・ごちやませカメレオン ・かもさんおとおり ・あたし、ねむれないの ・どうぞのいす	赤羽末吉/市村久子 君島久子/赤羽末吉 寺内輝夫/長新太 バージニア・リー・パートン エッチ・エイ・レイ たかどのぼうこ 多田ヒロシ 小井正吾/山本忠敬 せたていじ/わきたかずえ さとうわきこ さのようこ さとうわきこ デイビット・マッキー ペーメルマンズ/瀬田貞二 エリック・カール ロバート・マックロスキー カイ・ベックマン/バー・バックマン 香山美子/柿本幸造
	命・自然が大切に思える	・わすれられないおくりもの ・ずっとずっとだいすきだよ ・さっちゃんのまほうのて ・ひさのほし ・八郎 ・三コ ・花さき山 ・ちいさいタネ ・はるにれ ・くまよ ・ちいさなロツテ		バーレイ ハンス・ウイヘルム たばたせいいち 岩崎ちひろ 斉藤隆介/滝平二郎 斉藤隆介/滝平二郎 斉藤隆介/滝平二郎 エリック・カール 柿崎一馬 星野道夫 ブルーナー・ディック	心暖まり優しい気持ちになる
夢や不思議・ときどき冒険	・おおきなながほしい ・おしれのぼうけん ・エルマーのぼうけん ・じごくのそうべえ ・かいじゅうたちのいるところ ・おばあさんのスプーン ・こくまのぼうけん ・さかなはさかな ・だるまちゃんとかみなりちゃん ・もりへ ・またもりへ	佐藤さとる/村上勉 ふるたたるひ/たばたせいいち ルース・スタイルス・ガネット 桂米朝/たじまゆきひこ モーリス・センダック 神沢利子 吉崎正巳 レオ・レオニー かこさとし エッツ/まさきりこ エッツ/まさきりこ	ゆかいで笑いたくなる	・ねずみくんのチョッキ ・11びきのねこシリーズ ・Jせんたくかあちゃん ・だるまちゃんをとんぐちゃん ・みんなうんち ・うんちしたのはだれよ ・よくばりすぎたねこ ・キャベツくん ・だんごどっこいしょ ・すいかのたね	なかえよしお/上野紀子 馬場のぼる さとうわきこ 加古里子 五味太郎 ヴェルナー・ヴォルフ 佐藤和貴子 長新太 大川悦生/長谷川知子 さとうわきこ
友達・仲間・大切な人	・わたしとあそんで ・とんことり ・りょうくん ・まっくろネリノ ・クレリア ・しんせつなともだち ・100万回いきたねこ ・しろいうさぎとくろいうさぎ ・どうながのプレツエル ・ね、ぼくのともだちになって ・どんなにきみがすきだか あてごらん ・ともだちくるかな ・あしたともだち ・おおきいトンとちいさいポン ・アフリカのぶくぶく ・しっばいしっばいぶくぶく ・たろうのともだち	エッツ/与田準一 林朋子/筒井頼子 清水道尾/山内ふじ江 ヘルガニガルー マイケル・グレイニエツ 方軼羣/村山知義 佐野洋子 ウィリアムズ/松岡享子 M・レイ/H・A・レイ エリック・カール サム・マグブラットニイ 内田麟太郎/隆矢なな 内田麟太郎/隆矢なな いわむらかずお いわむらかずお 村山桂子/堀内誠一	自立への一歩	・はじめてのおるすばん ・はじめてのおつかい ・こんとあき ・モチモチの木 ・へへへのへいき	しみずみちを/山本まつ子 筒井頼子/林朋子 林朋子 斉藤隆介/滝平二郎 正道かほる
	言葉や文字・数を楽しもう	・かばのさかたちあいうえお ・ガチャガチャドンドン ・もこもこもこ ・ペーコンわすれちゃだめよ！ ・これはのみのびこ ・ことばのあいうえお ・なににするなににする ・ジョン・バーニンガムのはんたいことば ・いまなんじ ・さるるる ・さよならさんかく ・10までかぞえられるこやぎ ・あかたろうの123の456 ・あいうえおうさま ・あそぼうあそぼうあいうえを ・あいうえおてがみ	吉田定一/若山憲 元永定生 谷川俊太郎/もとながさだまさ バット・ハッチンス 谷川俊太郎/和田誠 五味太郎 多田ひろし ジョン・バーニンガム やましたはるお/むらかみつとむ 五味太郎 わかやまけん アルフ・ブレイイセン/林朋子 きたやまようこ 寺村輝男/和歌山静子 村上勉 山下明夫	郷土の絵本	・ゴーヤ ・おにムーチー ・かばまだら ・かえるのつなひき ・おうのやまのみみず ・ねずみのハーリー ・エイサー・エイサー
昔話	・きつねのよめいり ・ももたろう ・ききみみずきん ・こぶとりじいさん ・かさじぞう ・かからたろう ・ねずみのすもう ・はなさかじいさん ・おにのよめさん ・十二支ものがたり ・やまんばのにしき ・だいくとおにろく ・いっすんぼうし ・えすがたあねさま	松谷みよこ・瀬川康夫 松居直/赤羽末吉 こわせたまみ/馬場のぼる 大川悦生/大田耕士 瀬田貞二/赤羽末吉 西本鶏介/飯野和好 大川悦生/梅田俊 鶴見正夫/田木宗太 岸なみ 岩崎京子 松谷みよこ・瀬川康夫 松居直/赤羽末吉 関敬吾 大川悦生/梅田俊			



## Ⅶ 保育実践

### 1. 検証保育(1)

一折り紙遊びから紙芝居作りへ

#### (1) 取り上げた絵本

『おりがみいちまい』

作 ひぐち みちこ  
出版 こぐま社



「おりがみ いちまい はんぶんにおつたら？」と半分に折った折り紙がいろいろな物に変身していく。四角におつた折り紙は「おうちのドア」や「はたけ」。その中から「こんにちは」と動物たちやにんじんだいこんがでてくる。三角におつた折り紙からは・・・。四角・長四角・三角という基本折りで動物や木など、いろいろな物に折り紙が変身していく。

#### (3) 活動の展開

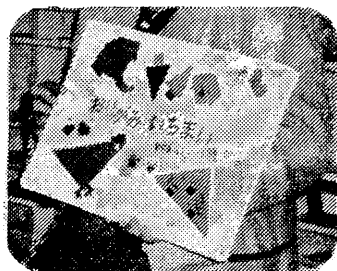
##### \* 活動の流れ

11/25 (月)  
「おりがみいちまい」の絵本を読み聞かせる。



11/27 (水)  
紙芝居に作りかえた「おりがみいちまい」を読み聞かせる。  
(写真1)

写真1 手作り紙芝居



##### \* 子どもの姿

絵本を読み聞かせる中で、4歳の子どもたちは、「半分におる」という言葉がうまくイメージされていないような印象を受けた。実際に折ることでよりイメージがわくのではないかと思う。また、絵本の絵が一画面に2つの絵が描かれている。一画面にひとつの絵のほうがよりイメージをふくらませることが出来るように思った。また、この絵本より「一緒に作って遊ぼうよ！」というメッセージが聞こえてくる絵本である。そこで、読み聞かせながら、実際に折り紙を半分に折れるように、ということと一画面構成の絵と考えたところ、紙芝居にする事によって、そのねらいが達成できるのではないかと考え、紙芝居に作りかえることにした。

・「本当に先生が作ったの？」実際に画面を手で触ってみて、「本当だ、作ってある！先生すごい」「Y子ども紙芝居作りたい！」と予想以上に子どもたちの感動や反応が大きい。読み聞かせでは2回目ということもあり、言葉を覚えていて、言葉を発しながら読み聞かせを楽しんでいた。

##### \* 教師の援助と思い

画面に張られたいちまいのおりがみを、実際にはんぶんにおりながら話を進める中で、子どもたちはイメージが持ちやすく、また、一画面構成にすることで、次の画面へとイメージを膨らませながら楽しんで話を聞いていた。何よりも、先生が紙芝居を作ったということに大きな刺激を受けたようで、子どもたちの方から「紙芝居つくりたい」という声が出てきた。教材を少し工夫することで、子どもたちの興味を引きつけ意欲を引き出すことを感じる。

繰り返しの言葉のリズムが楽しく、何に変身するのだろうとイメージをふくらませながら楽しく見ることが出来る。

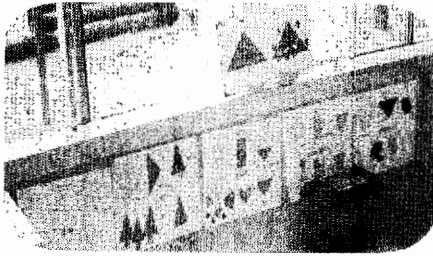
#### (2) 取り上げた理由

- ① 作ったり描いたりする活動が充実して来るこの時期に取り上げることで、子どもたちの「作ってみたい」という意欲が高まり、この絵本に対しての親しみもより増すのではないだろうか
- ② 繰り返しのリズムがこちよく、やさしい言葉でイメージをふくらませていくことが出来るので、子どもたちの中に言葉がスムーズに入っていくように思える。

また「こんにちは」「こんばんは」「おはよう」などのことばを楽しむことが出来る。

## 12/4 折り紙で遊ぼう

写真2 折り方の表示



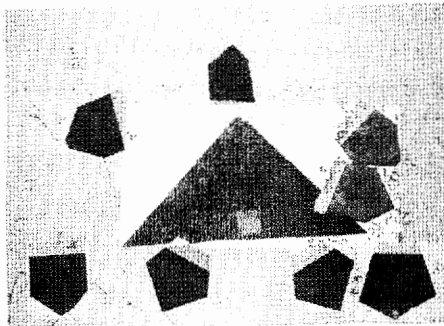
12/12  
紙芝居を  
作ろう！



写真3 紙芝居づくり開始！



写真4 ドングリのおまつり



ドングリさんに目もかこう！  
足もかこう！  
みんなでおまつりに、いきました。  
K子作

子どもたちの「つくりたい」という思いを達成させるために、絵本の中に出てくる基本折りが出来るよう、援助する。援助の方法として

1. 一人で折れない子へは、一緒に関わりながら折り方を知らせていく。
2. 折り方の表示等を作り、自分で見ながら折れるようにする。

(写真2)

・折り紙の折り方の表示をみながら一生懸命折っている。折り方の表示は、子どもたちの間ではいつの間にか『説明書』になっていて、「説明書見せて」と言いながらお互いにまわしあい楽しんで作っていた。

折り紙で、いろいろ折れるようになったら、紙芝居作りに挑戦！

1. 自分の作りたい画面を考える。
2. 紙芝居作り開始
3. 出来上がった紙芝居で遊ぼう！

自分の作りたい画面を考え、集中して取り組んでいた。できないところは、友達同士で教え合う姿も見られ、友達と一緒に会話しながら楽しんで取り組んでいた。(写真3)



紙芝居づくりでの子どもの姿



### K子の様子

ドアから動物が出てくる場面を黙々と作っているほとんど教師の手を借りることなく自分で作っている。ぞうの鼻なども自分で切り取り、とても楽しい場面が出来る。この日は畑の場面とドアの場面を完成。翌日、「先生、K子、今日はドングリ作る」とドングリの画面に取り組む。最初は2～3個のドングリで終わろうとしていたのだが、しばらく、画面を見ていて「先生、K子ここにも、ここにもドングリ作る」とドンドン作り出す。作って張ると今度は、目などを書き入れ、「先生ドングリに足も描こうね」と足を書き入れている。とても、楽しい場面が出来上がる。一つの場面の中でイメージを一杯に膨らませて遊んでいる様子が伝わってくる。

出来上がった紙芝居を持ち、K子はソファに座ってボソボソと一人言。「みんなでお祭りに行きました・・・盛り上がりよう・・・盛り上がりよう・・・」自分でお話を作り、楽しんでいた。

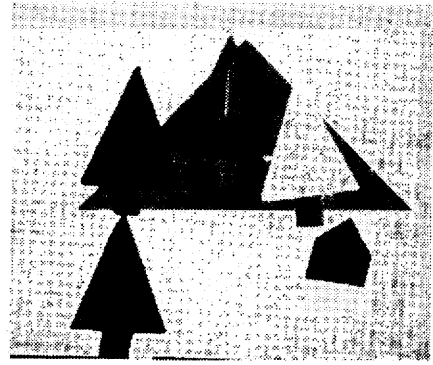
(写真4)

### T男の様子

昨日と同じように、一生懸命やっている。紙を2つつなげて合体させるのが好きなようで今日の作品も2枚つなぎ。木がうまく折れず最初の斜めに折る部分を折ってあげると後は「一人で大丈夫」とのこと。木も「秋の木」と言って赤い折り紙で作る「夏の木」は黄緑そして「冬の木」を作るんだと、色を一生懸命探している。青を手にとり「違う、これはつめたい色!」と置いて置き、手にしたのは、色のついた折り紙を反対にした白。白い木を作り「これが冬の木」、T男なりにイメージが一杯で。とても楽しそうに集中して取り組んでいた。

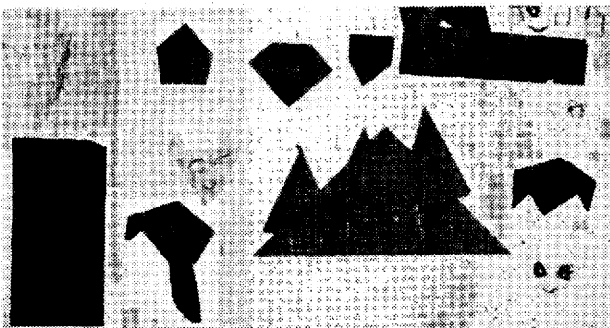
(写真5・6)

写真5 秋の木・冬の木・夏の木



秋の木は・・・ 赤い折り紙  
夏の木は・・・ 黄 緑  
冬の木は・・・  
えーと、えーと  
白い色だよ! (T男作)

写真6 みんなあそぼう!



♪ ともだちいっぱいきたよ!  
みんなであそぼう! ♪  
(T男作)



写真7 どうぶつさんこんにちわ



にんじんさんが、どうぶつたちにあいにきたよ。「こんにちわ」って!(A子作)

### A子の様子

畑の画面と、ドアから動物が出てくる場面を作り、にんじんの折り紙を動物の画面に貼り付け「にんじんさん、動物たちに会いに来た」と自分なりにお話を作り、イメージを膨らませている。(写真7)

### (3) 実践の考察

- ・子どもたちの興味や実態に合わせ、絵本を紙芝居へと作りかえることで、ますますその絵本の楽しさを味わい、作ってみたいという気持ちが高まっていった。
- ・子どもたちの作りたいという思いをかなえる為、折り方の表示を作ることで意欲をもって取り組んでいた。
- ・同じ絵本を繰り返し読み聞かせていくことで、話の内容を覚え、次への予想を持ち、イメージを膨らませながら読み聞かせを楽しんでいた。また、日々の生活の中でも「折り紙いちまいはんぶんにおったら」と絵本の言葉を楽しむ様子が見られた。
- ・実際に、自分で紙芝居作りに取り組む中で、既成のお話が自分なりのオリジナルなお話へと変化していき子どもたちなりのイメージの広がりや膨らみが見られた。

## 2. 検証保育（2）

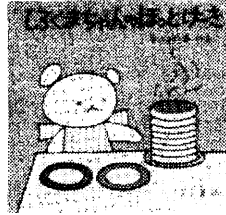
### —絵本の間接体験を直接体験へ—

日時 平成14年12月24日（火）9:00～11:30

場所 浦添市立神森幼稚園 うさぎ組

男児7名 女児9名 計16名

授業者 平田 輝代美



#### （1）主題名

ホットケーキパーティー

#### （2）取り上げた絵本

しろくまちゃんのホットケーキ

わかやまけん 作 こぐま社 出版

#### （3）主題設定の理由

##### 【4歳児の発達特性】

4歳の発達の特徴として、自分の目で見て確かめる、手で触る、食べてみる、聞いてみる、話してみる、作ってみる、など実際に経験することによって、あれこれと考えることが出来る具体的直接的時期といわれている。また、言語能力が急速に発達する時期でもあり、その言語能力は単に伝達の手段としての発達ばかりでなく、思考の発達にも大きな変化をもたらし、4歳児の世界を大きく広げていくといわれている。

以上のようなことから、具体的直接的な経験が4歳児にとって、思考力や判断力、そして豊かな表現力を育む上で大切であると考えられる。

##### 【クラスの子どもの姿】

好奇心一杯で「自分でやる」と何でも自分の力でやってみようとする。そのような子どもの姿から、何かを伝えるとき、詳しく丁寧に、そしてゆっくり時間をかけて関わることを保育の中で大切にしてきた。

読み聞かせにおいても、一学期より、繰り返し読み聞かせるということを心がけてきた。子どもたちは、興味を持った本は飽きることなく、繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。その中でいつの間にか話を覚え、教師が話の中で言葉を少しでも間違えると、「先生ちがう」としっかり指摘してくる。そのことから、繰り返し丁寧に与えること

で、言葉に対する感覚が育まれイメージを膨らませながら楽しんで聞いていることが分かる。

また、絵本の中の言葉が日常生活の中に出てくることもしばしばである。

##### 【題材として取り上げた理由】

上記のような4歳児の発達の特性を踏まえ、今回「しろくまちゃんのホットケーキ」を題材として取り上げた。絵本で経験した「おもしろい」「たのしい」「ほんとかな」「やってみたいな」というような子どもたちの様々な感情を、実際にホットケーキを焼くということで、①ホットケーキを食べるうれしさ ②ホットケーキが出来る過程への興味 ③自分で作るということの魅力を体験する。そのことにより、絵本で楽しんだイメージがより深まり、さらに絵本の中に出てきた言葉を実際に音やかおりなど五感を通した実体験と結びつけて楽しむことで、言葉に対する感覚もより育むことが出来るのではないかと考える。

今回は特にホットケーキが焼き上がっていく場面に焦点をあて、実際にホットケーキを焼きながら子どもたちの口から自然にその場面の言葉が出てくることを願い、繰り返し読みや、焼き上がっていく場面をカード形式にするなどの工夫を行い、言葉が子どもたちの中に定着して行くような援助を心がけてきた。言葉を楽しむということは、豊かなイメージを膨らませることになり、絵本の楽しみを広げることになると考える。

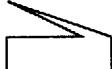






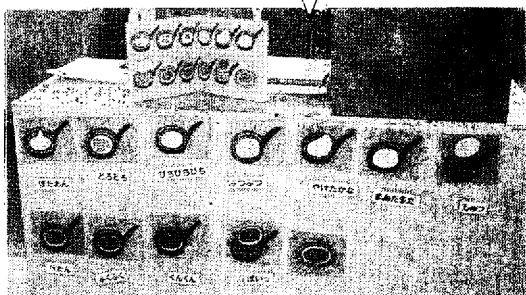
このように絵本の間接体験を直接体験へと結びつけていくことや、遊びに取り入れていくことが、絵本への親しみをより深めていくのではないかと考え本題材を取り上げた。

##### （4）授業仮説

① 絵本を通して経験した間接体験を直接体験することで言葉に対する感覚が育まれ、イメージが豊かになり、さらに、絵本に対する親しみが深まるであろう。

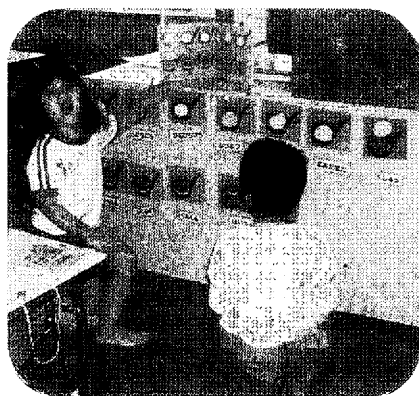
② 教具を工夫することにより、お話への興味を高め楽しさを味わうであろう。

(5) 検証保育（本時）までの取り組み

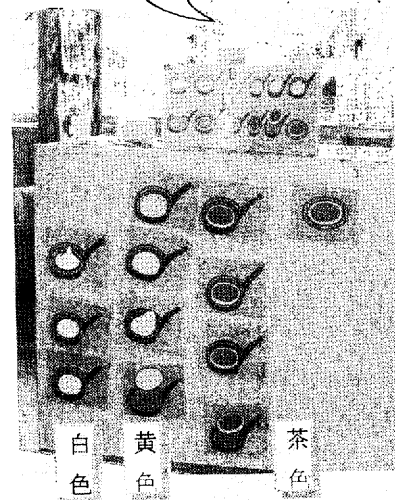
活動の流れ	子どもの姿 	教師の援助 
<p>12月16日（月）</p> <p>○「しろくまちゃんのホットケーキ」を読み聞かせる。</p>	<p></p> <p>「おいしそう」「たべたい」と口々にいっている。Y子は立ってきて、ホットケーキのページをなめている。</p>	<p>「みんなで、つくろうか」と投げかけてみる。「つくりたい」という子どもたちの思いを高め24日にホットケーキパーティをする事を話し合う。</p>
<p>12月18日（水）</p> <p>○「しろくまちゃんのホットケーキ」を絵本とカードにした場面とを使って読み聞かせる。</p>	<p>前回の読み聞かせの反省より、ホットケーキが焼けていく場面は一面構成の方がよい。 その理由として</p> <p>①イメージがより膨らみ、次の場面を想像しながら楽しんで観る事が出来る。 ②言葉への興味もより高まる。 以上のような考えのもと、一場面を12枚のカードへと作りかえる。絵本の読み聞かせをし、ホットケーキが焼けていく場面はカードを用いて読み聞かせる。</p>	<p></p> <p>カードを使った、読み聞かせ場面では、前回以上に集中し、焼き上げる過程の言葉に興味をもち、次の画面の言葉はなんだったかなと考え、「ぶつぶつ」「くんくん」などと言葉を発し、楽しみながら見ていた。</p>
<p>○カードを並べて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順番をしる</li> <li>・言葉を楽しむ</li> </ul>	<p></p> <p>読み聞かせで使ったカードを、子どもの目につきやすい位置に貼っておく。</p>	<p>さっそく、興味を持った子が遊び出す。絵本を持ってきて、焼き上がっていく順番通りに並べる。順番道理に並ぶと「先生、出来たよ」と嬉しそうに報告し、「また最初からやろう」と並べ替え、何度も楽しんでいる。</p>
<p>12月19日（木）</p> <p>○カードで遊ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・焼ける順番が分かるかな</li> <li>・言葉で表現できるかな</li> </ul>	<p></p> <p>びちびちびちのつきはぶつぶつでしょう！</p> 	<p>できた！ 絵本と おんなじ</p> 

12月20日(金)

○カードで遊ぼう!



せんせい、あのね!  
色で順番がならべられるよ!



♥ ホットケーキの焼けていく様子を色で分けられることに気づき、色わけして並べている。絵をしっかりと見ている子どもならではの気づきである。

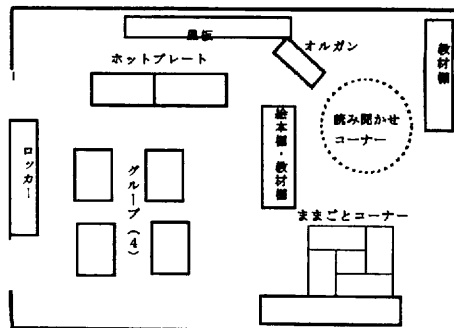
(6) 検証保育指導案

日時	平成14年12月24日(火) 9:00~11:30		
対象	うさぎ組(4歳児) 男児7名 女児9名 計16名	主題	ホットケーキパーティー
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と一緒にホットケーキづくりを楽しむ。</li> <li>○絵本に描かれたお話や言葉のイメージを膨らませる。</li> </ul>		
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも自分の力でやってみようとする。</li> <li>・絵本やお話を聞くことは好きで、読み聞かせは集中して聞く、しかし、時間が長くなると寝そべったりする子もいる。</li> <li>・2人程文字をスラスラ読めるため、読み聞かせの際、絵よりも文を読むことに興味を持っている子がいる。</li> <li>・まだまだ自己中心的な面が強い子が多いが、その中でも友達をいたわる気持ちや、思いやりなどは、しっかりと持っている。</li> </ul>		
時間	生活の流れ	♥ 教師の援助	☆ 環境構成
8:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登園</li> <li>・あいさつをする。</li> <li>・所持品の始末。</li> <li>・排泄をすませる。</li> <li>○朝の会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♥ 一人ひとりを笑顔でむかえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 活動の流れがスムーズに進むよう、読み聞かせのコーナーと調理コーナーを設ける</li> </ul>
			評価の観点

8:45 ・出席の確認  
 ・今日の日程の確認

♥活動中の約束を再確認する

- ①手洗いをを行い清潔にする
- ②調理器具などを使うので走り回らない。
- ③ホットプレートは高温なのでさわらない。



○読み聞かせ  
 「しろくまちゃんの  
 ホットケーキ」

9:00

(2台のホットプレートには教師がつき安全に留意する)

♥絵本の読み聞かせを行い、ホットケーキを作る手順を確認する。

○ホットケーキ  
 作り開始

・イメージを膨らませながら、読み聞かせを楽しんで聞いていたか。

9:15

- ①たまごをわる。
- ②牛乳を入れる。

☆グループに用具や材料を準備する。(4グループ)

③かき混ぜる。

**用具** ボール4個・あわたて器4本・フライ返し4本・  
 おたま4本・フキン4枚・ホットプレート2台

④粉を入れる。

**材料** 卵4個・牛乳(小)4パック・ホットケーキミックス1袋

⑤まぜる。

- ♥グループで役割を分担しながら作業を進めているか見守る。
- ♥牛乳や粉、卵を割るという手順は、なるべく子どもたちに経験させる。
- ♥多少失敗しても、子ども同士で助け合いながら取り組めるように見守る。

⑥生地が出来上がった順に焼く

・絵本の中に描かれている作り方の手順などを思い出し、楽しみながら取り組んでいたか。  
 ・子どもたち同士で助け合いながら取り組んでいるか。  
 (ボールを押さえあったりするなど)

⑦焼き上がった子は自分の皿にホットケーキを入れる。

♥生地が出来上がったグループから順番に焼くよう知らせる。自分の分は自分で焼くことが出来るよう見守りながら安全に気をつけ、取り組ませる。

⑧準備が出来た子は座って待つ。

♥焼き上がるのを待ちながら、絵本の中に出てきた焼ける様子を、においや・音・言葉で追体験し、イメージを膨らませることが出来るよう、教師も意図的に絵本の中の言葉を使うよう心がける。

○おやつ準備  
 ・他の子が焼き上がるまで座って待つ

♥「ホットケーキの声きこえるかな？」と投げかけ子どもたちの言葉を引き出す。

☆12枚のカードは子どもたちの目につきやすいところにはっておく。

・ホットケーキが焼き上がっていく過程で、絵本の中の言葉が、子どもたちの中から自然に出てくるか。

♥焼き上がった子はグループで座って待つよう声をかける。

10:00	○おやつ	(グループ名・・・ひよこ・ハリケンジャー・りゅうき・ドレミ) ♥ みんなで楽しくおやつタイムが出来るよう、お客さんも各テーブルに入ってもらおう。 ♥ 一緒におやつを楽しみながら、子どもたちの話に耳を傾ける。
10:10	○片づけ ・歯磨き	♥ グループの仲間と力を合わせて片づけが出来るよう声かけをする。 ☆ よごれたお皿を入れるための、かごを準備しておく
10:30	○集まる ・グループで座る	♥ 今日の活動について子どもたちの感想を聞いてみる ・ホットケーキの音が聞こえてきたかな? どんな音が聞こえてきた?
10:45	・先生の出し物 (巻き巻きシアター)	・蒔絵風にした手作りのお話教材を使って演じる。
11:00	「サンタさんがもらったプレゼント」	・手作りの教材を活用することで、興味を持ち楽しんでお話を聞いているか。

(7) 本時の評価

- ①グループの友達と力を合わせ、楽しみながら取り組むことができたか
- ②絵本での体験を、追体験しながら、言葉を楽しみイメージを膨らませていたか



(8) 授業仮説の結果と考察

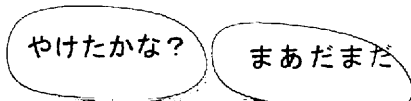
☆授業仮説①の検証

絵本を通して経験した間接体験を直接体験することで言葉に対する感覚が生まれ、イメージが豊かになり、さらに、絵本に対する親しみが深まるであろう。



(結果)

- ・実際にホットケーキの生地を作る場面において、絵本で経験した手順(卵を割って、牛乳を入れて、よくかき混ぜ、粉を入れる)をしっかりと覚えていて、グループの友達同士で力を合わせ、取り組んでいた。
- ・ホットケーキを焼く場面においては、「ぼたん・ぶつぶつぶつ・やけたかな・まあだまだ」など絵本の言葉を楽しみながらホットケーキが焼けていく様子を興味深く見ていた。



(考察)

- ・絵本を繰り返し読み聞かせたことで、絵本の内容や言葉を覚えクラス全員が共通のイメージをもって活動に取り組んでいったと思われる。
- ・ホットケーキを焼くという体験を絵本の経験と結びつける事で言葉を楽しんだり、次はこうなるのかなと、イメージを膨らませより楽しく活動することができたと考える。





☆授業仮説②の検証

教具を工夫することにより、お話への興味を高め楽しさを味わうであろう。

(結果)

- ・絵本の一場面を、カード形式に作りかえ、読み聞かせに活用することにより、カードをあそびに取り入れ、その中でことばを覚え楽しむ姿が見られた。
- ・カードを持ってきて、実際にホットケーキが焼けていく様子と照らし合わせ 言葉や、焼ける過程を楽しんでいた。
- ・手作りの教具を使って、お話を語ることで、子どもたちは興味をもち楽しんで聞いていた。「もっとみたい!」「もう一回やって」という子どもの声が聞こえた。

(考察)

- ・カードをつくるという教具の工夫をする事で、言葉への関心が増し、その絵本に対する子どもの興味が高まった。
- ・子どもの発達や実態に応じて、教材や教具を工夫することにより、絵本やお話への興味関心が高まり楽しく活動できた。

(9) 授業の反省

○なるべく子どもたちができることは、自分たちの力でやっていくという事を大切に、保育に取り組んだ。アクシデントやトラブルも多々あるだろうと予想していたが、思ったほどトラブルもなくスムーズに活動を進めることができた。多少のアクシデントがあっても、子どもたち同士で素早く対応し、助け合う姿に感動する場面もあった。同じ絵本の世界を全員が経験したことで、共通のイメージが描けたということが楽しく活動を進めることができた大きな要因なのではないかと考える。

○子どもたちの言葉を引き出すために、教師はどういう発問をすればよいのだろうか、考えた時、4歳児の発達の特性であるアニミズムの世界を楽しむということを考慮に入れ「ホットケーキの音が聞こえるかな?」「どんな音が聞こえてきた?」と投げかてみた。

すると、耳をすませて、ホットケーキの声を聞き取ろうとする姿や『もうやけた』っていつているよ!』『ぶつぶつぶつ』って聞こえた」と、子どもたちの声がかえってきた。教師がどういふ発問をするかで、子どもたちの興味やイメージの膨らみ、そして表現も変わってくるように思う。あらためて教師自身の言葉かけの大切さを痛感した。

ほら!  
絵本とおんなじ  
『ポイ』だよ



ありがとう

ボール押さ  
えておくれ!



ホットケーキの音が聞こ  
えてきた!  
ぶつぶつぶつ



## Ⅷ 研究の考察

### 1. 作業仮説の検証

#### (1) 作業仮説1の検証

子どもの興味関心に応じた絵本を精選し、読み聞かせることによって、言葉に対する感覚も生まれ、イメージが深まるであろう。

#### (結果)

##### 検証保育(1)の実践より

○子どもたちの発達を考慮に入れ、教師なりの願いをもち読み聞かせることで、紙芝居作りへと発展していった。その中で自分なりのイメージを膨らませながら紙芝居の場面を作ったり、お話を作っ

て楽しんでいる姿が見られた。

##### 検証保育(2)の実践より

○絵本で経験したホットケーキを焼くという事を、実際に体験する中で絵本の中に出てくる言葉を楽しんだり、次はこうなるのかなと予想し、イメージを膨らませ楽しく活動することができた。

・・・家庭より・・・

・ホットケーキの絵本がお気に入りのようでも、また作りたいといっていました。休みの日に子どもにまかせて、お姉ちゃんと2人で焼かせてみました。楽しそうにやっていましたヨ

・ホットケーキの本を読んでもらい自分で作ったことを楽しそうに話してくれます。『おおきなかぶ』の話も好きな様子で何度も話します。科学ブックが好きで全部借り終えたので次は『ノンタンシリーズ』を全部読みたいといっています。

・絵本のことになると目をキラキラさせて・・・絵本貸し出しの毎週金曜日を楽しみに帰ってきます。(毎日借りられたらいいのにな・・・)

○園で経験したホットケーキ作りを家庭において

も楽しんでいる様子や、絵本に親しんでいる様子が見られる。

○繰り返し絵本を読み聞かせたことで、絵本の内容や言葉を覚え、クラス全員が共通のイメージをもって活動に取り組んでいた。

#### (考察)

○子どもの発達や興味関心を捉えて絵本の読み聞かせをする事で、子どもたちの意欲や関心が刺激され、絵本の世界が、紙芝居作りやホットケーキ作りへと発展していった。

その中で、イメージの膨らみや言葉を楽しむ様子が見られたこのことは、言葉への感覚が生まれ、絵本への親しみがより増したと考える。

また、一緒に活動を楽しむ仲間の存在が、より楽しく活動を行う上では必要不可欠である。それは、集団を育てるという面でも大切であると考える。同じ絵本の世界を全員が経験したことで、共通のイメージをもって、遊び、楽しみ、満足する。その中で集団の育ちや豊かな心が育まれていくのではないかと考える。



#### (2) 作業仮説2の考察

教材や教具の工夫を行うことで、より絵本に親しみ、絵本の楽しさを味わうであろう。

#### (結果)

##### 検証保育(1)(2)の実践より

・子どもたちの興味や実態に合わせ、絵本を紙芝居へ作りかえる。あるいは絵本の場面をカードへと作りかえるなどの工夫を行ない同じ絵本を繰り返し読み聞かせていった。

その中で次のような子どもの姿が見られた。

- ① 自分たちで「作ってみたい」という気持ちが高まっていった。
- ② カードで遊ぶ中で、言葉を覚え、言葉を発する楽しさを味わっていた。
- ⑤ 実際に、自分で紙芝居作りに取り組む中で、既成のお話が自分なりのオリジナルなお話へと変化していき子どもなりのイメージの広がりや膨らみが見られた。

#### (考 察)

子どもの興味関心をとらえながら再度絵本を見直していくと、絵本から広がっていく遊びや子どもたちの興味を引きつける教具の工夫が浮かんでくる。生活や遊びに取り入れる教具を工夫することで、子どもの表情が生き生きとし、イメージを膨らませながら、絵本の楽しさを味わう様子が見られた。子どもに絵本を手渡していく時、教師なりの願いを持ちながらじっくりと、そして工夫することの大切さを感じる。

### Ⅸ 研究の成果と課題

#### (成 果)

- 発達や興味に応じた絵本を読み聞かせることで子どもの絵本に対する意欲や関心が高まっていった。
- 教材や教具の工夫を行い、繰り返し絵本を読み聞かせることによって、絵本の内容や言葉を覚えイメージを膨らませながら絵本に親しんでいる様子が見られた。
- 絵本の間接体験から実際に紙芝居作りやホットケーキ作りなどの直接体験と結びつけることで、絵本が生活の中でより身近な物になっていった。
- 集団で読み聞かせを経験するという事は、お互いに共通のイメージをもって遊びや活動に取り組み、集団や仲間の育ち合いにつながる事が分かった。

#### (課 題)

- より一人一人の発達に応じた絵本、夢や想像力をかき立てられるような絵本を精選し、指導計画の充実を図っていきたい。
- 教材や教具の工夫にさらに力を入れ、生活や遊びの中で絵本の世界がより親しめるようにしていきたい。
- 子どもたちが絵本に親しめるよう、家庭との連携を深め、読み聞かせを継続していきたい。

#### おわりに

「幼児期からの心の教育のあり方」が問われる中、幼稚園教育において大切なことはなんだろうと考えてみました。その中で、絵本の読み聞かせを通して、絵本に親しみ、子どもたちに夢や感動・想像する楽しさを味わうことで、「幼児期の心を育てていきたい」と考えこの研究に取り組んできました。現場を離れ思うように実践できないという葛藤もありましたが、現場にいるとなかなかできない文献による理論研究、その中で様々な理論や実践に触れ、いろんな角度から実践を見直す事ができました。教材や教具を少し工夫することにより、子どもたちの表情が生き生きと輝き出すこと、教師自身の物の見方や発想の展開でいくらかでも楽しい活動は生み出されていくのだということを痛感しました。また、研究に取り組む中、多くの絵本や本に出会いました。その本によって癒され、励まされ、勇気づけられるなど、ゆっくりと、ゆったりと本に触れることにより、大人も子どもも、心が育まれていくのだと実感しました。現場に戻ると、せわしい日々が待っていることと思います。しかし、研究所で学んだことを生かし、子どもたちと共に、どきどき・わくわく・不思議だな？と心を動かす感動体験ができるような活動及び絵本の読み聞かせの実践を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、研修期間中励ましご指導下さいました浦添市教育委員会の知念敏枝指導主事、本研究所の大城淳男所長、當間正和係長、山里昌樹指導主事、多くの貴重な御指導、御助言、心より感

謝申し上げます。そして、研究所の職員の皆様には、大変お世話になりました。

更に、研究所での研修に快く送り出し、支えて下さった神森幼稚園の新嘉喜守園長と職員の皆様、この半年間の研修を、共に支え合い乗り越えてきた研究員のメンバーに厚くお礼申し上げます。



ありがとう  
ございました。



《主な参考・引用文献》

- ・文部省 『幼稚園教育要領解説』（平成11年度版）
- ・代田知子著 『読み聞かせわくわくハンドブック』 一声社 2001
- ・松岡享子著 『こども・こころ・ことば—子どもの本との20年—』 こぐま社 2000
- ・松居直 『わたしと絵本論』 国土社 1989
- ・げ・ん・き編集部編 『読み聞かせでのびる子ども』 エイデル研究所 1998
- ・エルシー・オズボーン著 『子どもの発達と心理（4歳）』 あすなろ書房 1989
- ・河合隼雄・松居直・柳田邦夫 『絵本之力』 岩波書店 2002
- ・わたなべめぐみ著 『絵本であそぼう』 国土社 2001
- ・井上初代・古川伸子編著  
『幼稚園児の生きる力を育てる生活プランの考えと実践』 明治図書 1999
- ・対談 小田豊・塩美佐枝 『幼稚園教育をどう創るか』 明治図書 1999
- ・ドロシー・バトラー著 『クシュラの奇跡』 のら書房 2000
- ・ジム・トレリー著 『読み聞かせ この素晴らしい世界』 高文研 2002
- ・吉村真理子著 『絵本の匂い保育の味』 小学館 1998